



広島県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体
Victim Assistance Center of Hiroshima
公益社団 広島被害者支援センター

ニューズレター



年頭のごあいさつ



公益社団法人
広島被害者支援センター顧問
広島県警察本部長
名 和 振 平

新年明けましておめでとうございます。

広島被害者支援センター並びにその運営を支えておられる会員及び支援活動員の皆様におかれましては、平素から犯罪被害者等への支援活動に多大な御尽力を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年、国は犯罪被害者等基本法に基づく「第3次犯罪被害者等基本計画」を策定し、犯罪被害者等の権利利益の保護が、より一層図られる社会を目指すために必要な具体的施策を示しました。広島被害者支援センターにおかれましては、昨年8月、新たに性暴力被害者のための相談窓口「性被害ワンストップセンターひろしま」の設置に伴う対応をされるなど、第3次基本計画に盛り込まれた施策を着実に推進していただいているところです。

県警といたしましても、広島被害者支援センターをはじめとする関係機関・団体の皆様と連携を密にし、第3次基本計画に盛り込まれた施策を鋭意推進して参りますので、よろしくお願いします。

結びに、広島被害者支援センターの益々の御発展と会員及び関係者の皆様方の御健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。

年頭のご挨拶

公益社団法人
広島被害者支援センター
理事長 山 本 一 隆



新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

さて広島被害者支援センターも発足から13年目を迎え、広島県公安委員会から犯罪被害者等早期援助団体に指定され9年が経過しました。当初、電話相談から始まった被害者支援活動も、被害者・遺族等のニーズが多様化し、最近では、被害者の求める支援を確認するための面接相談、裁判への付添い等被害者に寄り添う直接支援が大幅に増えてきました。また、事件・事故の関係者が他の都道府県に関係し、他の支援センターと意思の疎通を図りながら共同した支援を必要とする事案も増えてきました。

一方、被害者・遺族の要望に沿ったきめ細かい支援を行うことを目的に、昨年4月、呉市役所に南部相談室を開設するとともに、火・金曜日を新たに相談日として加え、更に相談時間も午前9時から午後5時までと2時間の拡大を図りました。加えて、昨年8月から広島県の委託事業となる性被害に特化した「性被害ワンストップセンターひろしま」を当センターの運用時間に合わせ開設しました。

当センターでは、引き続き被害者に寄り添い、心を通わせる支援に努めて参る所存でございます。

今後とも、当センターの支援活動につきまして、格別のご支援、ご協力をお願い致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

電話・面接でのご相談まずはお電話ください

相談は、無料です。
相談の内容は決して漏れることはありません。
安心してご相談ください。

相談無料
秘密厳守

電話相談
☎082-544-1110

【相談日】 毎週月曜日～土曜日
第1、第3日曜日
【相談時間】 午前9時から午後5時まで
※ 8月13日～16日、12月28日～1月4日を除く

広島被害者支援センター 平成28年度講演・写真展を開催

11月20日（日）、呉市内「つばき会館音楽ホール」において、フォトジャーナリスト大藪順子氏おおやぶのぶこを講師にお招きして、「立ち上がる選択—性暴力被害者が生きやすい社会のために」と題し、平成28年度講演会を開催（呉市共催）しました。呉市民をはじめとして135人の来場者がありました。

アメリカ在住中、一番安らげ・安心できる居宅において、深夜侵入してきた男から性暴力を受ける不幸な事件に遭遇されました。

被害者の心情・二次被害に配慮したアメリカの警察捜査のあり方・捜査段階から被害者を担当する弁護士が同席するアメリカの司法制度が紹介され、加えて、深夜にも拘わらずサポートに駆けつけた支援員から、「あなたは悪くない」というインパクトのある言葉をかけられます。性被害者が被害を一人で抱えることの困難さも、周りの人々からの支援により救われ、被害から立ち上がることができる。「自分は悪くない」ということを出発点に、堂々と生きることのできる社会にするためには、周囲が無関心であってはならないと訴えられました。



講演中の大藪順子氏

講演の中でも紹介された性被害者が声をあげる「実名で顔を出し」氏の取材に応じた、アメリカ等の性被害者を撮影した写真が、被害の実態等解説付きでロビーに展示されました。

地域イベントを協賛

11月27日（日）・12月3日（土）、廿日市市内で開催されたカーブ選手と交流できる2件の「夢ジョブ祭り」を協賛しました。

写真は、12月3日広島県ドッジボール協会から寄付金を受領するところを撮影したものです。当日イベントに参加した子ども達からも、持ち寄った小遣いが寄付金として当センターに寄せられました。



写真展

バス・電車・タクシー及び病院等での広報活動

うと共に、被害者週間にあわせ、自治体・バス協会・トラック協会をはじめ、交通事業者・総合病院等のご協力をいただき、病院等の公共施設やバス・電車内にポスターの掲示をしていただき、広報活動を行うことができました。

＜ポスター掲示にご協力いただいた交通事業者・総合病院等＞ 広島電鉄株式会社（広島市）、広島バス株式会社（広島市）、広島交通株式会社（広島市）、広島高速交通株式会社（広島市）、芸陽バス株式会社（東広島市）、株式会社中国バス（福山市）、鞆鉄道株式会社（福山市）、備北交通株式会社（庄原市）、因の島運輸株式会社（尾道市）、本四バス開発株式会社（尾道市）中国ジェイアールバス株式会社（広島市）、おのみちバス株式会社（尾道市）、エイチ・ディー西広島株式会社（広島市）、宝塚タクシーグループ（広島市）、県立広島病院（広島市）、広島大学病院（広島市）、広島市民病院（広島市）、国立病院機構呉医療センター（呉市）、J A広島総合病院（廿日市市）、広島赤十字・原爆病院（広島市）、浜脇整形外科病院（広島市）、株式会社広島バスセンター（広島市）、JR広島駅（広島市）〈順不同〉

当センターでは、今年度年間を通じてラッピング電車・タクシーによる広報活動を行



電車内広告

事例に学ぶ研修会の開催

6月22日（水）、多くの死傷者を出したスキーバス転落事故の遺族・被害者の支援に、長野県警察から要請を受けて従事された「長野犯罪被害者支援センター」唐澤三郎事務局長を講師に招き、当センター支援活動員を対象に研修会を行いました。

この事故は、平成28年1月15日（金）、各地から参加した多くのスキー客を乗せたスキーバスが、長野県内国道18号線軽井沢碓氷バイパスで転落、乗客・乗員15名が亡くなり、乗客26名が重軽傷を負った大変悲惨な事故でした。

唐澤事務局長から、この事故は連日マスコミに取り上げられ常に注目される中、遺族から要望されるマスコミ対策や弁護士相談、土・日で連絡の付かない他県センターへの引き継ぎ等多くの苦労を伴いながら行われた活動内容が説明されました。

高速道路網の発達した今日、こうした悲惨な事故の発生は、当県内においても起こりうる可能性があり、今後の支援活動の教訓となる研修会となりました。

弁護士と支援活動員の交流会開催

7月27日（水）、当センター研修室において、被害者支援に関係する弁護士12名と支援活動員16名が集い、出席した近藤剛史弁護士から、弁護士と支援活動員の相互理解を深める事例の紹介がありました。

その後、参加者相互の親睦を図る交流会が和やかな雰囲気の中催され、有意義な一時となりました。

当センター相談員栄誉賞を受賞

全国被害者支援ネットワーク主催の「全国犯罪被害者支援フォーラム2016」が、9月30日（金）、東京都千代田区内幸町イイノホールにおいて開催されました。

その席上、永年にわたり犯罪被害者支援活動に尽力し、特に顕著な功労があったと認められた全国の犯罪被害相談員の表彰が行われ、当センター田邊美枝相談員に被害者支援ネットワーク平井紀夫理事長から栄誉賞が贈られました。

被害者遺族と支援員のふれあい



を送りました。

試合は、延長戦にもつれ込む接戦となり、惜しくも一点差で中日に敗れましたが、遺族の方々から「月日が経ちながらも変わらぬ心遣いをいただき、心安らぐひとときを過ごすことができました。」と、同行した支援員に感謝の言葉をいただきました。

また当日は、スコアボード横のオーロラビジョンに、風見しんご氏が登場する広島被害者支援センター広報CMが、31,432人の観客が見守る中、カープ球団のご厚意により放映されました。

7月20日（水）、カープ観戦の呼びかけに応じた被害者遺族（8名）をマツダスタジアムに招待、広島対中日16回戦を支援に携わった支援活動員とともに、熱い声援



自動販売機による被害者支援を！

被害者支援を呼びかけ、飲料自動販売機の売り上げの一部が当センターに寄付される仕組みの「犯罪被害者支援自販機」を設置していただける個人・事業所・建設現場等を求めています。

新規設置のみならず、現在稼働している自販機、建設期間中の期限付き運用も可能です。

詳しくは、事務局 ☎082-245-6667 にお問い合わせください。

なお、販売価格・販売手数料は、設置先様のご要望・条件等により決定します。



設置にご協力いただいた
もみじ銀行昭和町支店

平成28年中の支援活動状況

支援活動月別件数 ▼

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
電話相談開設日数	15	18	18	27	25	28	26	25	26	27	26	24	285
電話相談件数	23	24	33	41	31	48	17	27	33	26	41	41	385
面接相談件数	4	5	1	2	7	4	0	0	3	0	2	2	30
直接支援件数	48	33	65	60	76	59	28	38	73	78	52	44	654
弁護士相談件数	1	1	3	3	5	6	1	0	2	3	2	3	30
臨床心理士相談件数	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	5

電話相談内容分類 ▶

殺人	0
暴行傷害	4
性的被害	4
D V	0
虐待	0
ストーカー	0
交通被害・事故	0
消費者問題	1
財産的被害	1
その他	23
問合わせ	8
計	41

早朝街頭キャンペーンに高校生・大学生が参加



11月25日（金）、JR広島駅南口において、午前7時30分から行った街頭キャンペーン活動に、修道高校野球部員18名・安田女子大学生3名が、登校前の時間を利用して参加、広島県・広島県警察・広島市に加え、第六管区海上保安本部・保護観察所・法テラス等各団体からの参加者30余名と共に、通勤・通学中の人々等に犯罪被害者支援活動に対する理解と協力を呼びかけ、リーフレットや啓発グッズの入った袋3,000個を配布しました。

ラジオ放送による被害者支援の呼びかけ

犯罪被害者週間に因み、11月21日から12月5日まで（土・日を除く）の期間中、RCCラジオの協力を得て、犯罪被害者の支援を呼びかける15本のスポット放送を行いました。

テレビ取材に応じ被害者支援を訴える

当センター岡野政義専務理事は、NHKのテレビ取材に応じ、当センターが行っている支援の実情について、高齢化するボランティア支援員・求められる支援の多様化・裁判等被害者に寄り添う直接支援の増加・直接支援の増加に伴う費用の増加・センター運営の財政的基盤等様々な角度からの説明を行い被害者支援への理解と協力を訴えました。取材結果は、11月26日（土）、当センターが支援対応を行った被害者の声とともに、NHK総合テレビ「週間ニュース深読み」の番組で放映されました。

編集後記

身も拡がりつつあります。

不幸にして被害に遭われた被害者等は、様々な問題に直面し、問題を抱えることとなります。こうした問題を被害者等の立場に則した支援を行うには、呉市や府中市で制定されている犯罪被害者支援に関する条例が、県内全ての自治体に制定され、県内どこに住んでいても均しいサポートが受けられる支援の枠組作りの必要性を痛感します。

昨年8月、広島県からの業務委託を受け、性被害に特化した相談業務を当センターの本来業務に加え運用することになり、求められる支援の中

性暴力被害者相談窓口の開設

専用ダイヤル ☎082-298-7878

当センターは、広島県の委託に基づき、8月30日から、広島県・広島県警察・広島弁護士会・広島県医師会と連携を図りながら、性暴力被害者が、被害を一人で抱え込まず被害直後から総合的な支援を受けることができ、被害者の心身の負担の軽減、健康の回復を図ることを目的に、性被害に特化した「性被害ワンストップセンターひろしま」（通称「ワンストップセンター」）の相談窓口を開設しました。

当センターでの相談電話は、月～土曜日及び第1・第3日曜日の午前9時～午後5時まで受け付けています。運用開始にあたり、前日の29日（月）、豊富な経験と指導力を備え、相談業務の要となる7名がスーパーバイザーに指名され、山本理事長から委嘱状が交付されました。



被害者支援を担当する警察職員の当センター視察

- 1 8月25日（木）、警察庁犯罪被害者支援室長から要請を受け、警察庁・中四国管内各県警察において、犯罪被害者支援を担当する警察職員20名を対象に水戸川事務局長が、
- 2 9月6日（火）、広島県警察本部警察安全相談課長からの要請を受け、県下各警察署において被害者支援の中核を担う16名の警察官を対象に岡野専務理事が、

それぞれ視察に対応し、支援の現状や関係機関との連携の実情等を説明、犯罪被害者にとって、センターと警察との意思疎通が重要な役割を担うことに理解を求めました。



共同募金にご協力を！

犯罪被害者の支援活動をささえる財源確保を目的に、共同募金会と連携した「社会課題解決プロジェクト」活動に参加し、平成29年1月1日から同年3月31日までの3ヶ月間共同募金活動を行います。被害者支援の募金活動にご理解とご協力をお願いします。



“社会課題解決プロジェクト” 募金用紙



本誌は、共同募金会の助成を受けて発行しています。